

不登校

休学

中退

進路未定

進路に不安を抱えた 生徒に寄り添う

学校訪問型ユースワークのご紹介



■Youth+（札幌市若者支援総合センター・若者活動センター）

指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



- はじめに 1
- このようなスタッフがあります 2
- このような取り組みをしています 3
- このような生徒へのサポートをしています 5
- このような声が届いています 6

はじめに

◎若者支援施設と学校連携の重要性

日本の場合、学校が果たす役割が他国に比べると大きいと感じています。ということは逆に言うと地域の中には高校生とか若者に対する有効な社会的な機関が少ないともいえるのです。ですので、学校という機関を単に教育機関という意味だけではなく教育、雇用、福祉、保健、医療、その他といった機能を高校に集めることができる仕組みをつくるのが日本の社会にとっては現実性があるのではないかと思います。

以上のことから、若者支援分野と学校連携は新しい学校像をスタートさせるという意味でとても重要なことだと思っています。

◎ユースワーカーへの期待

医者やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなどの支援はまさに困難がはっきりしていてターゲットとしてわかる生徒に対してなのです。ですが、ユースワーカーというのはもっと広い機能を用いると思います。特に問題のない生徒たちを含め、その年齢層に特徴的なゆらぎを含み、それからまさに今支援が必要な人たちをも含めて、広く多様な若者を把握する入口を担う人として一番適切ではないでしょうか。だからお兄さんお姉さん役といいましょうか、場合によってはおじさんお婆さん役として、(実は専門性をもちながらもある面ではそういった専門性をもろに表に出さない役割を担いながら、より専門性の高いニーズにつないでいく役割をもつ) ユースワーカーが学校に入りやすくなるのかなり変わるのではないかなと思うのです。

◎先生へのメッセージ

場合によっては先生自身がユースワーク的なノウハウを持つ事も必要だと思います。そういう意味で先生たちに対する影響、ユースワークのアプローチを先生たちの間にも広げるという意味でも効果的です。先生方もユースワークの発想をもつと視野が広がっていいのではないかと思います。



宮本みち子氏

放送大学／千葉大学名誉教授
専門分野：社会学・生活経営学
主な研究：成人期への移行に関する国際比較研究
少子高齢化社会のライフスタイル
若者の社会的包摂政策

このような スタッフがいます

スタッフ紹介

各種学校教員免許や保育士、社会福祉士、公認心理師、国家資格キャリアコンサルタント、個人情報保護士などの資格を持ち、高校生年齢への理解が高く、社会資源の情報に富んだユースワーカーが対応します。



札幌市若者支援施設について

札幌市若者支援施設条例（2009年10月8日公布）に基づき、「若者の社会的自立を総合的に支援することにより、活力ある地域社会の実現に寄与する」ことを目的に2010年4月、市内5ヶ所に設置されました。

ユースワーカーが地域の社会的資源（学校、民間団体、行政機関等）を活用しながら、15歳～34歳までを対象に「社会的セーフティーネットによる支援」、「若者同士の交流、仲間づくりの支援」、「社会参画に向けた支援」の3つの視点で活動を支援しています。

訪問型ユースワークのねらい

ユースワークとは、イギリスを始めヨーロッパ各地で行われている若者の成長を手助けする取り組みです。ユースワークを専門に行う職員である「ユースワーカー」は、国家資格となっている国もあり、日本においても養成や実践が行われているところです。

当財団ではユースワークの手法を用いて、主に高校への「訪問型ユースワーク」を展開し、若者の進学や就労だけではなく、仲間づくりから社会参加まで幅広く支援しています。

小中学校での不登校など困難な状況が続く若者に対しては、少年期からの継続的な支援が必要です。教育機関等との連携を通じて、生徒自らが困難な情報を発信できない場合でも、支援にたどり着けるような道筋を作ります。



このような 取り組みをしています

課題の早期発見から

全学年
向け

学校内サードプレイス

全学年
向け

個別面談 (学校生活・進路相談)

生徒の抱える悩みや、置かれている状況を整理し、解決に向けて関係機関等による適切な支援を組み合わせながら継続的に面談を行います。必要に応じて、卒業後のサポートへとつなげます。

1、2年生
向け

コミュニケーション トレーニング

レクリエーションを通じて、クラスメイトとのコミュニケーションの取り方のコツを伝えます。クラス単位で実施することが多く、生徒にとって居心地のよいクラスづくりのきっかけを提供しています。

全学年
向け

進路ガイダンス

自己分析や企業研究のサポートや近年の就職状況をふまえて進路の選び方や考え方のポイントを伝えます。1年生には学校生活を充実させるためのアドバイス、卒業年次には具体的な進路選びをサポートします。

卒業年次
向け

マッチング交流会

ユースワーカーと生徒が交流を図り、卒業後の「相談できる場所」としてYouth+を認知してもらう機会とします。座談会やお菓子づくりなど生徒にとってインパクトのあるイベントにすることで、卒業後に交流会を思い出して相談に来るケースが増えています。

就職決定者
(就職希望者) 向け

就労継続の ための授業

早期離職を予防することを目的に、就職後の相談窓口や居場所の案内をするほか、よくある離職ケースやそれを防ぐための手段を紹介します。また、労働関係法令に関するレクチャーも行っています。



今までは、先生に聞いてもらっていただけで、卒業後は何かあったらYouth+に相談してみようと思いました。

いざ就職となると不安で仕方なかったけれど、自分を助けてくれる機関がわかり、少し安心しました。



卒業後の継続支援へ

学校のニーズに応じて、
①校内居場所型 ②定期訪問型 ③随時訪問型
いずれかの方法でYouth+との連携を検討いたします。
詳しくはお問い合わせください。

PICK UP

学校内サードプレイス

～市立札幌大通高校 「ドーリプレイス」 の取り組み～

目的

生徒の学校生活の中に、家庭、学校以外の第3の居場所(サードプレイス)を作り、将来へ向けた多様な選択肢に触れ、自分らしく過ごすための場を提供すること。

内容

校内居場所カフェ（自由に食べたり飲んだりできるお茶やお菓子類や、交流のきっかけとなるゲーム類、本類などを用意）を運営する。

効果

- ・生徒が学校に通学しやすい環境を創る
- ・相談することへのハードルを下げ、生徒を取り巻く課題の早期発見・解決を図るなど

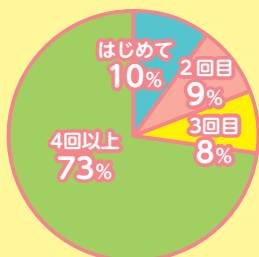
スタッフ

教職員・PTA役員・Youth+ユースワーカー

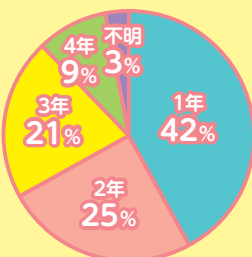


数字で見るドーリプレイス

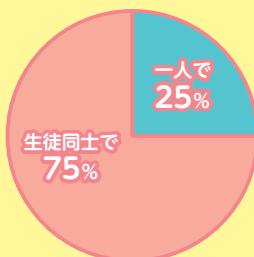
利用回数



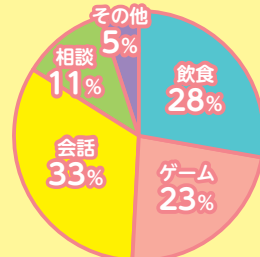
学年



誰と利用したか



ドリプレでの活動内容



信頼できる大人が増えた

放課後や空き時間の過ごし方が変わった

もっと開催頻度が増えるといいな

全学年向け

移動型Youth+活用事業

潜在的な困難を抱えた若者に出会うため、移動型Youth+（キッチンカー）を活用して、ユースワーカーが学校の敷地内や札幌市内の若者が集まる公園や児童会館などで事業を展開します。

集まってきた若者と一緒に調理やお喋りをしたりすることで、その場を若者の居場所に変える取り組みをしています。札幌市内各地にいわば「どこでもYouth+」の拠点を拡げています。



このような生徒へのサポートをしています

貧困対策

ケース1 食事や生活リズムなど生活面での不安がある生徒



アプローチ

- 中学在学中から移動型Youth+活用事業にて関係を構築し、食に係るサポートを継続。
- 高校入学をきっかけに学内個別面談で相談に乗り、Youth+の利用につなぐ。

成果

- 学校とYouth+間で生徒情報と支援方針を共有し、切れ目のない支援体制を築くことができた。

不登校の予防

ケース2 友人関係のトラブルが原因で学校を休みがちな生徒



アプローチ

- 学校内サードプレイス（居場所カフェ）の利用を促し、教室に入ることの前段として、学校へ通うきっかけを提供。
- ユースワーカーを介して、同じく悩んでいる生徒や居場所に毎回参加する生徒との接点を設ける。

成果

- 居場所カフェで出会った新しい友人と共に学校生活を送っている。Youth+を活用し、他校の生徒とも交友関係を広げている。

中退後の支援

ケース3 家庭環境の変化を理由に中退が決定した生徒



アプローチ

- 高校在学中に学内個別面談にて関係を構築し、中退手続きのタイミングで担当教諭の面談に同席。
- Youth+にて個別面談を実施し、就労支援のほか、高卒認定資格取得に向けた無料学習サポートを案内。

成果

- 中退後も「アルバイトをしながら高卒認定資格取得を目指す」ことを目的にYouth+を継続的に活用している。

自己実現

ケース4 なんとなく消極的に学生生活を送っている無気力な生徒



アプローチ

- 1年生向け進路ガイダンスにてYouth+の取組みを案内。
- 運動に興味を持っていたことからYouth+で実施しているスポーツイベントへの参加を促す。

成果

- イベント参加をきっかけに、社会人や大学生など少し年上の世代との交流が進み、本人のロールモデルとなった。現在は実行委員を務めている。

※事例は本人が特定されないよう一部改変しています。

このような声が 届いています

北海道有朋高等学校 単位制課程 東出彩佳 教諭

○スタッフの印象

「会話力の高さ」ですね。若者に寄り添う専門家として、様々な生徒の考えや気持ちを引き出すのがとても上手だと感じます。なかなか心を開くのに時間のかかる生徒に対しても、根気強く対応いただくことで生徒の安心感へとつながっている印象です。

○生徒の特長と支援の必要性について

とにかく優しい生徒ばかりです。中には小、中学校で上手くいかなかった経験を持つ生徒もいるため、お互いの優しさの中でリハビリをしながら挑戦に向かいます。しかし、その環境は卒業後の社会とのギャップが生じることもあります。学校にしながら学校外の大人と接する体験が重要であり、その中で生徒は自身の将来を考えるきっかけに出会い、新たな社会の入り口につながっていくのだと思います。



北海道北広島西高等学校 瀬尾敦子 教諭

○連携の成果について

私も生徒からの相談を聞ける範囲で対応していますが、Youth+のスタッフに話すきっかけを貰っている生徒も多くいます。教員が知りえないところ、例えば家庭の事情などを拾い上げてくださって、生徒がこんなことで困っているなら私たちはどんなサポートをしようかと教員の中で相談ができます。Youth+は教員と生徒を繋ぐ存在を担ってくれています。

○「学校訪問型ユースワーク」への期待と要望

春には多くの教員が入れ替わるので、教員向けの研修会を行っていただくのも良いかもしれません。教員が連携のイメージをつけるためにも、心配な生徒をつなげた後に、どのような展開になるのか、具体的なケース事例を教えて欲しいです。

また、もうちょっと早く生徒の状況を知っていれば、教員側のアンテナを高めておけば適切な支援につながったケースもあります。したがって、今まで通り、生徒が心を開くよう寄り添ってくれたら嬉しいです。あとは、訪問回数が増えたら良いのですが（笑）。



市立札幌大通高等学校振興会 鎌鹿博次 理事長

○学校内サードプレイス(ドリープレイス)の効果

先生でも親でも友達でもない、歳の近い大人と話すことによって、大人への偏見が無くなっていくのではないかと考えます。「こういう大人もいるんだ！」と考えることで、自分の保護者世代の大人とも自然にコミュニケーションが取れるようになる。大人とのコミュニケーションの入口、入門として効果が期待できます。

○Youth+への要望

それぞれ思いを持って仕事をしていますね。させられている、というよりも自主的に動いている方が多い印象です。本校は貧困世帯で暮らす生徒が多く、居場所カフェはそのケアを目的の一つとして事業をスタートさせました。心のケア、貧困状態へのケア、不登校生徒へのケアなど、今後も理念を忘れずに続けていきたいと思っています。



お問い合わせは
各センターへ



ユースプラス

検索

Youth+センター (若者支援総合センター)



中央区南1条東2丁目6
大通バスセンタービル2号館
TEL 011-223-4420
FAX 011-231-2884

Youth+アカシア (アカシア若者活動センター)



東区北22条東1丁目1-20
TEL 011-752-7959
FAX 011-752-7938

Youth+ポプラ (ポプラ若者活動センター)



白石区東札幌2条6丁目5-1
ターミナルハイツ白石3階(入口1階)
TEL 011-862-8802
FAX 011-862-8891

Youth+豊平 (豊平若者活動センター)



豊平区豊平8条11丁目3-5
TEL 011-823-5256
FAX 011-823-5299

Youth+宮の沢 (宮の沢若者活動センター)



西区宮の沢1条1丁目1-10
(札幌市生涯学習センターちえりあ内1階)
TEL 011-671-4111
FAX 011-671-4103

事業案内

札幌市では若者支援総合センターと若者活動センターを開設しています。若者と地域を結ぶ拠点として、まちづくり活動やイベントへの参加をサポートします。また、15歳～34歳の方を対象とした講座の開催や団体の登録制度を設けて情報提供を行うなど、若者の仲間作りや交流を促進します。なお、若者支援総合センターでは、引きこもり、ニート等、困難を抱えた若者の支援も行います。

就労・進路に関する相談について

若者支援総合センターは、15歳～39歳までの若者またはそのご家族、支援者の皆さまを対象とした総合相談窓口を設け、若者の社会的自立を支援します。個別相談や各種プログラムを実施しているほか、さまざまな若者支援機関の中継拠点としての役割を持ちます。

また、厚生労働省より「さっぽろ若者サポートステーション」事業を受託し、就労に向けた支援を行っています。仕事のこと、自立のこと、一人ひとりの“これから”を一緒に考えてみませんか？

ご相談はこちらまで(札幌市若者支援総合センター内)

TEL: 011-223-4421

●お問い合わせはメールやLINEでも受け付けています
月曜～土曜(祝日・年末年始・休館日を除く) 電話受付10:00～18:00
Eメール: sapporo-saposute@syaa.jp

